

平成 29 年度 第 3 回西部地域医療構想調整会議 結果概要

開催日 平成 29 年 10 月 31 日

1 公的医療機関等 2025 プランについて

- 浜松労災病院は、現在、高度急性期 6 床、急性期 306 床だが、2025 年度もこの体制を変更することは考えていない。なお、急性期 306 床のうち 52 床は地域包括ケア病床なので、今後は急性期機能だけでなく、ポストアキュート（回復期機能）も含めた病床として運用していく。
- 天竜病院は、現在、急性期 32 床、慢性期 226 床だが、2025 年度もこの体制を変更することは考えていない。慢性期病床における上位基準を取得することで重症患者の受入体制を強化し、他の病院との機能分化を進めていく。また、結核病床については結核モデル病床化について検討していく。
- 聖隷三方原病院は、現在、高度急性期 353 床、急性期 287 床、慢性期 170 床だが、2025 年度も高度急性期・急性期機能を中心に現行機能を維持していく。その他の病床機能（ホスピス、精神科病棟、結核病棟、重症心身障害児施設等）についても、現状どおり継続していく。
- 浜松赤十字病院は、現在、高度急性期 12 床、急性期 300 床だが、2025 年度もこれらの病床を維持していく。現在、2 箇所で開催している訪問看護ステーションは、浜北区の訪問看護ステーションに統合することを検討している。
- 浜松医科大学医学部附属病院は、現在、高度急性期 576 床だが、特定機能病院として地域の高度急性期医療を担う必要上、現在の高度急性期病床を維持する必要があると考える。より質の高い医療の提供体制を整備し、医療機関として優れた医療人を養成するため、病院の施設面の機能強化を進めていく。
- 浜松医療センターは、現在、高度急性期 322 床、急性期 278 床である。2021 年度に改築を予定しており、その際に高度急性期を 10 床程度増やし、急性期を 10 床減らすことを考えている。

- 浜松市リハビリテーション病院は、現在、回復期 225 床であり、今後も効率的かつ効果的なリハビリテーションを提供していくため、2025 年度もこれらの病床を維持していく。
- 佐久間病院は、現在、急性期 36 床、慢性期 20 床であり、2025 年度においても急性期 36 床と慢性期 20 床での運営を目指しているが、2019 年度から 2023 年度にかけて地域の状況や時勢に適した病床数や種別を検討し、必要に応じて再編することも想定している。
- 市立湖西病院は、現在、急性期 196 床のうち 93 床は休床している。休床病床の利用に関しては、今後検討の余地があると思われるが、休床病床の再開に当たっては急性期病床として再開するかどうかは今後さらに検討していくつもりである。
- 引佐赤十字病院は、現在、慢性期 99 床であり、2025 年度においても引き続きこの体制を維持していく。地域医療構想では、将来的に慢性期の病床は過剰になると予想されているが、当院のように医療必要度の高い患者を中心とする療養病棟入院基本料 1 病床の維持は必要であると考えている。
- どの病院も時代の変化によって多少は病床機能に変更があるかもしれないが、基本的には現状維持を目標としているようである。

2 第 8 次静岡県保健医療計画（素案）について

- 数値目標の「紹介元病院の退院時カンファレンスに参加する診療所」の部分が、カンファレンスに参加する診療所の数そのものを増やすのか、診療所の比率を増やすのか判然としないので、表現を改めるべきである。（会議後、発言した委員の意見を参考に当該数値目標の表現を修正した）
- 特定健診の受診率は、主として国民健康保険に入っている人のデータから算出しており、社会保険に入っている人のデータが含まれていないため、実情と異なる可能性が高い。よって、特定健診受診率を数値目標にするべきではないと思われる。（会議後、委員の意見を参考に特定健診受診率に関する数値目標を削除し、メタボリックシンドローム該当者の標準化該当比に関する数値目標に置き換えた）